

平成 17 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「功労賞」



小澤 勲 (おざわ いさお)

種智院大学・客員教授

1938 (昭和 13) 年 6 月 10 日生

【授賞理由】

小澤氏は認知症高齢者の人たちの尊厳を守るためにその人の立場に立った考え方や彼らが選択する生き方を支えるために努力を惜しまず多くの人々に生きることの大切さと勇気と希望を与えた。その功績に対し、本賞を授与するものである。

【略 歴】

1963 年 3 月	京都大学医学部卒業
1964 年 8 月～1965 年 2 月	滋賀県中央児童相談所
1965 年 3 月～1967 年 8 月	兵庫県立光風病院
1970 年 8 月～1994 年 3 月	京都府立洛南病院
1994 年 4 月～2001 年 3 月	老人保健施設桃源の郷
2001 年 4 月～現在	種智院大学 (客員教授)

【業績および功績】

自らの功績を語るのは至難である。しかし、あえていえば、以下のことだろうか。

- 1) 他の疾患 (例えば、統合失調症、感情病) には、精神病理の書が数多くあるが、認知症の場合、先達室伏君士先生の書を除いて、ほとんどなかった。これでは認知症ケアの基礎学が確立できないと考え、その 1 つの可能性を示した。
- 2) その際、健常者の欠損として認知症者の世界を述べるのではなく、「痴呆老人からみた世界はどのようなものなのだろうか。彼らはなにを見、なにを思い、どう感じているのだろうか。そして、彼らはどのような不自由を生活しているのだろうか」(「痴呆老人からみた世界」冒頭の文章) を基本視点とした。
- 3) 認知症のケアは、今、大きな転換点にさしかかっている。症状や「問題行動」を抑え込み、世の規範に押し込めるケアから、1 人ひとりの「物語」を読み、彼らが抱える不自由を的確に知って、彼らの世界に添った、彼らが選択する生き方を支える方向へ変わってきたと感じる。そのごく一端を担えたと思う。
- 4) 市民の方々に認知症の真実を知っていただくために、自分の考えを親書の形をとって出版した。現在、10 万部程度が出ている。また、できる限り、全国各地で講演を引き受けた。話の基本は、実践に基づき、事例を挙げて、認知症の世界を語ることにあわせて、認知症ケアがどうあるべきかを説いた。

【主な著書】

『痴呆老人からみた世界：老年期痴呆の精神病理』岩崎学術出版（1998）

『痴呆という生き方』（浅野 弘毅編：痴呆性高齢者のこころと暮らし.）（2001 所収）

『痴呆を生きるということ』岩波新書（2003）

『物語としての痴呆ケア』三輪書店（土本 亜理子共著）（2004）

『認知症とは何か』岩波新書（2005），ほか多数